

令和8年度（2026年度）第1回北区まちづくり懇話会 会議録

【日 時】 令和8年（2026年）7月16日（木）午前10時～11時30分

【場 所】 北区役所2階第2～4会議室

【出席委員】 岡 順子、関 智弘、平山 愛、久富 将功、廣永 芳伸、
山部 陽平、徳永 親、堀 史、松本 康宏、一安 明子、
古市 伸一郎 以上11名（敬称略）

【傍 聴 者】 なし

【会議次第】 1 開会
2 北区長挨拶
3 委員紹介
4 職員紹介
5 審議事項
（1）令和7年度（2025年度）の振り返りについて
（2）令和8年度（2026年度）北区まちづくりの取組について
6 北区長と意見交換
7 閉会

1 開会

2 北区長挨拶

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

皆様方には日頃より市政全般に渡り、格別のご理解とご協力をいただいているところでございますが、さらに、まちづくり懇話会の第7期の委員として、北区のまちづくりにご意見をいただきたいと思いますと考えております。

今年度も、昨年度に引き続き、特に「地域活動の担い手確保」と「在住外国人との共生」の2つの項目について、重点的に取り組んでまいりたいと考えております。

委員各位におかれましては、豊かな経験や専門的な知見に基づき、様々な角度からご意見賜りますようお願い申し上げます。

3 委員紹介

各委員より自己紹介

4 職員紹介

各所属長紹介

5 審議事項

(1) 令和7年度(2025年度)の振り返りについて

(2) 令和8年度(2026年度)北区まちづくりの取組について

資料1、資料2について、事務局より説明

(松本委員)

今年度の事業の「⑳防災まちづくり事業」で、地域の実情に沿った特色ある防災対策を支援するとあるが、具体的な取り組みがあるのか。

(事務局)

自主防災組織等による避難訓練や防災活動を支援するため、講師派遣や防災物品の提供、ハザードマップ作成支援、地区防災計画策定支援(ワークショップ経費の支援等)を実施している。地域の実情に応じた防災まちづくりを推進し、地域防災力の向上を図る事業である。

(古市委員)

事業一覧のうち「地域コミュニティブランド活用事業」や「まちづくり懇話会」については、他の個別事業とはレイヤーが異なり、むしろ各事業を俯瞰して地域全体のまちづくりを考える位置付けではないか。

(事務局)

これらの事業が全体を俯瞰する役割を持つとの指摘については、十分認識している。実務上は7つの重点目標に基づいて予算編成を行っていることから、「地域コミュニティブランド活用事業」や「まちづくり懇話会」は、地域の活性化や地域課題の解決に直結する取組として、「地域コミュニティ」の分野に分類している。

6 北区長と意見交換

◆宿泊税の使途について

(平山委員)

令和8年7月1日から宿泊税(1人1泊200円)が導入され、宿泊事業者がお客様から徴収している。導入に当たっては、地域全体で観光振興に取り組むための財源として理解し、前向きに受け止めている。

一方で、宿泊客には宿泊税に加え入湯税(150円)も負担いただいており、料金負担の増加によって他地域との比較で利用者の選択に影響が出るのではないかとの懸念がある。特に、近隣自治体では宿泊税が導入されていない地域もあるため、競争上の不安を感じている。

また、宿泊税を導入する以上は、その使途について透明性を確保し、特定地域に偏ることなく、熊本市全体の観光振興に資する形で有効に活用してほしい。

(岡本区長)

宿泊税は観光振興や受入環境整備等に活用する考えである。来年度に予定している西南戦争150年記念事業に向けた準備を進めており、その会場となる田原坂公園の施設整備について、宿泊税を活用できないか財政担当と協議を行った。その結果、公衆トイレ等の工事に着手する予定としている。引き続き、市域全体に対して観光資源に資するような効果的な活用が図られるよう関係部局と連携していきたい。

(古市委員)

宿泊税については他自治体でも導入が進んでおり、県と市の双方が課税している事例もある。将来的に熊本県においても宿泊税の導入が検討される可能性を踏まえ、県と市の役割分担や税収の使途、配分のあり方について、あらかじめ想定しておく必要があるのではないか。

◆北区におけるデザインマンホールの導入について

(堀委員)

熊本市で展開されているデザインマンホールは、下水道事業への関心喚起に加え、地域PRや観光振興にも寄与している。その上で、北区の農産物や自然資源、区の花であるひまわりなどの地域資源を活用したデザインマンホールの設置やマンホールカードの作成・配布を行うことで、地域の魅力発信や郷土愛の醸成につながるのではないかと。

また、本来の下水道事業の推進を前提とした上での提案ではあるが、マンホールサミットへの参加経験を踏まえ、デザインマンホールはまち歩きや観光客の回遊促

進、周辺消費の拡大など地域経済への波及効果も期待できることから、地域活性化の取組として検討をお願いしたい。

(岡本区長)

地域資源の PR については様々な手法を活用して取り組んでいきたい。区の花であるひまわりについては、小学生を対象としたひまわり絵画コンクールを毎年実施しており、昨年度からは応募作品を活用したモザイクアートを制作し、各まちづくりセンター等で展示するなど、認知度向上に努めている。

また、デザインマンホールについては、地域資源の PR や魅力発信につながる取組の一つとして認識しており、今回の提案については今後の参考となる貴重な意見として受け止め、関係部局とも共有しながら検討していきたい。

◆目指す区の姿「ず〜っと住みたいわがまち北区」をどう実現していくか

(古市委員)

地域課題の解決は重要である一方、課題対応だけではなく、北区の将来像を見据えた発展的な議論も必要ではないか。北区の将来の姿や「ず〜っと住みたいわがまち北区」の実現に向けた視点を持ちながら、まちづくり懇話会の役割を考えていくことが重要。

また、これまでのように行政への意見や提言を行うだけでなく、委員それぞれが持つ課題意識や地域での経験を持ち寄り、それらを整理し、課題同士のつながりや相乗効果を見出す場としての役割を懇話会に持たせてはどうか。

さらに、課題解決に向けては、直ちに事業化するのではなく、仮説を立てて小規模な実証や試行を行い、その結果を検証しながら改善を重ねる仕組みを構築し、継続的に次年度以降へ引き継いでいくことが望ましい。

加えて、こうした取組を懇話会委員のみで担うのではなく、大学等との連携も活用しながら、学生にも分析や実証活動に参加してもらうことで、地域課題の認識や解決手法を次世代へ継承していく仕組みづくりができていくと思う。

(岡本区長)

昨年度、地域で活動する様々な団体や地域住民、企業が参加し、地域課題や困りごとについて意見交換を行う「集談会」をまちづくりセンター単位で開催した。

また、その中には学生も参加し、意見をいただいた。

さらに、現在、次回開催に向けた準備を進めており、昨年度は自治協議会等が中心であったが、今後は PTA や学生など若い世代にも参加を呼びかけ、地域の将来像やまちの魅力向上など、未来志向の視点を取り入れた議論を行うため、校区単位での開催を検討している。

また、委員から提案のあったまちづくり懇話会の役割については、他委員のご意見もお伺いする等、懇話会での検討が必要と思っている。

◆多様な北区民が北区を“互いに誇れる愛すべき故郷”として共有するには
(徳永委員)

地域コミュニティづくり支援補助金は、地域活動や新たなチャレンジのきっかけとなる有意義な制度であり、特に退職後のシニア世代が地域活動に参加する際の後押しとして有効である。また、制度の使いやすさや自由度も高いため、より多くの市民に活用してもらえるよう積極的な周知が必要ではないか。

若い世代を対象とした市民公益活動支援基金などの制度についても、地域活動やボランティア活動への参加のきっかけとなることから、さらなる情報発信が必要。

過去3回に渡り「集談会」を開催してきたが、植木地域の経営者から「熊本市と合併したことで何が良かったのかよく分からない」という声を聞く。北区内の地域間のつながりや一体感の醸成が課題であり、人と人が出会い交流する機会を増やすことが地域づくりの基本だと思う。その上で、シニア世代がこれまで培った知識や経験、専門性を地域で生かせる仕組みづくりを進めるとともに、多様な世代や地域を越えた交流を促進していくことが重要。

さらに、国際交流についても、イベントや文化交流などを通じて身近な交流機会を創出し、人と人とのつながりを深めることで地域の活性化につなげていくことが望ましい。

(岡本区長)

地域コミュニティづくり支援補助金については、予算額を上回る申請があり、地域活動への関心や需要の高さを認識している。この補助金制度については、各まちづくりセンターを通じての案内も行っており、一定の周知は図られていると考えている。

今後は、市民公益活動支援基金と併せて制度の周知を進め、地域団体がより充実した活動を行えるよう支援していきたい。

北区の一体感の醸成については、北区スポーツ協会の協力により、秋の「いきいき交流スポーツ大会」や春の大会を開催しており、校区対抗競技を通じた地域間交流が図られている。この大会には北区職員も参加し、住民とともに汗を流しながら交流を深めている。

合併後の地域振興については、道路整備や下水道工事、道の駅建設などに取り組んできており、一定の成果はあったと考えている。今後も、住民の皆様「合併して良かった」と実感していただけるよう、引き続き地域の発展と暮らしやすいまちづくりに取り組んでいく。

(久富委員)

植木中央公園運動施設の整備により、公園内が明るく利用しやすい環境となり、ウォーキングを楽しむ人が増えるなど、市民の健康づくりや体力づくりの場として有効に活用されている。

一方で、近年の酷暑により、7月から9月頃までスポーツ活動時の熱中症リスクが高まっており、安全面から活動自体が制限される状況となっている。

夏季でも安全にスポーツ活動や地域住民同士の交流が継続できるよう、体育館への空調設備（エアコン）の設置をお願いしたい。

また、先ほどのマンホールに関する話題に関連し、植木地域の特色であるスイカを活用した PR は重要だと思う。特に植木青果市場のすいかモニュメントは県外からの来訪者にも強い印象を与えており、地域のシンボルとしての役割も期待できる。（岡本区長）

熊本市では、現在、小中学校の体育館への空調設備導入を先行して進めている。スポーツ施設の体育館における空調設備整備の状況については把握していないため、現状を確認した上で関係部署へ要望を伝えたい。

体育館はスポーツ活動だけでなく、選挙の投開票所としても利用されており、投票立会人や来場者の健康管理の観点からも暑さ寒さ対策が必要であると認識している。

スポーツを行う人々が安全に活動できる環境を整えることは重要であり、利用者の健康と安全が確保されるよう取り組んでいきたい。

（廣永委員）

今年度のまちづくり事業「⑤モルックしようぜ」が実施されているが、自身の事業所でもモルックに取り組んでおり、親子のふれあいや交流の場として活用している。大会の開催を重ねるごとに参加チームが増加しており、幅広い世代が楽しめるスポーツとして競技人口が着実に増えていると感じている。

植木中央公園運動施設をはじめ各地で大会が開催されるなど、モルックへの関心が高まっている。ルールが簡単で、子どもから高齢者まで気軽に参加できることが大きな魅力である。

今後は各地域（まちづくりセンター）単位で大会を開催し、その上位チームが集まって北区ナンバーワンを決定する大会の仕組みを設ければ、さらに競技の盛り上がりや地域間交流の促進につながるのではないかと。北区全体へ活動を広げることで、より多くの市民が参加できる機会を創出してほしい。

（岡本区長）

「モルックしようぜ」の活動については、Instagram でも発信しており、各地域で和気あいあいとした雰囲気の中で取り組まれていることを把握している。モルックは世代を問わず参加でき、地域住民同士の交流やつながりづくりに有効な活動であると認識している。

今後のさらなる展開を見据え、各まちづくりセンターにも活動を広げながら、モルックを通じた地域づくりや地域間交流の促進につなげていきたい。

（徳永委員）

将来的な人口減少や財政状況を踏まえると、行政だけで地域課題に対応するのではなく、地域住民や団体の力を活かしたまちづくりが重要になる。

地域行事に必要な機材を個別に保有するのではなく、地域で共有して活用する仕

組みが有効ではないかと感じている。

例えば、草刈機などの機材をまちづくりセンターに配置し、地域住民が借りて使用できるようにすれば、地域環境の維持管理に活用できるのではないかな。

行政による草刈り等の対応だけでは限界があるため、機材の貸出しや技術指導などを通じて住民主体の活動を支援する仕組みづくりを検討してほしい。安全指導を徹底した上であれば、地域住民が担える活動は多くあり、地域の力を活かした取組を進めることも重要ではないかと思う。

(岡本区長)

地域団体等が地域の環境美化活動に取り組む「熊本市ふれあい美化ボランティア制度」や「熊本市公園地域パートナー事業」を北区土木センターで実施し、草刈りなどの維持管理に協力いただいている。

活動を進めるにあたっては、安全面の確保が重要であり、草刈機の使用などについては必要な講習や手続きが求められる場合もある。

地域の皆様が参加しやすい仕組みとなるよう、制度運用上の課題や支障がないか確認していきたい。

公園管理をはじめとする地域活動については、地域の皆様のご協力をいただきながら、行政と地域が協働して環境美化や地域づくりを進められるよう取り組んでいきたい。

(徳永委員)

私の地域では、調整池の清掃や草刈りを住民が自主的に実施し、草が生い茂ることなく良好な環境を維持している。管理が十分に行われない地域では、ごみステーション等環境が悪化し、景観や衛生面の課題につながっていると感じている。

しかし、ボランティア活動は負担も大きく、活動を継続するためには地域の取組を評価し、励ます仕組みが必要ではないかと思う。具体的には、環境美化や公園管理などに積極的に取り組む地域や団体を広報などで紹介し、その活動を広く発信し、表彰制度の仕組みを設けることで、活動の励みとなり、地域住民の参加意欲向上や活動の継続につながるのではないかな。

(岡本区長)

地域で環境美化活動などに熱心に取り組まれている方々の活動は大変重要であり、その努力に敬意を表したい。

高平台校区見守り隊が先日表彰を受けられたように、地域で継続的に活動されている団体や個人が評価されることは、活動の励みになると認識している。

(古市委員)

自治会の取組を評価することも重要だが、併せて「なぜ、ある自治会ではうまくいっていて、他の自治会では難しいのか」を分析する視点が必要ではないかと思う。北区内には同様の課題や状況を抱える自治会が数多く存在すると考えられるため、成功事例と課題を抱える事例を比較し、運営体制や活動内容、地域特性などの違い

を客観的に調査・検証する事業を実施してはどうか。

今後の自治会運営の持続性向上や新規会員の加入促進につながることを期待される。

(岡本区長)

熊本市としても、地域で実施されている全ての取組を十分に把握できているとは限らない。そのため、地域で行われている優れた取組や特色ある活動については積極的に把握し、広く紹介していくことが重要であると考えている。こうした事例を共有することで、他の自治会活動の参考となり、地域活動の活性化や自治会運営の充実につなげていきたい。

(一安委員)

高齢化が進む中、公共交通機関へのアクセスが困難な地域では、高齢者の移動手段の確保が大きな課題となっている。バス路線や JR 駅がある地域であっても、実際には自宅から停留所や駅までの移動に時間を要し、高齢者にとって利用しやすい環境とは言えない場合がある。また、介護タクシーや一般タクシーについても費用負担や予約の取りにくさなどの課題があり、必要な外出が困難になるケースも見受けられる。

さらに、地域住民による移動支援については、補助制度の要件や運転に伴う責任・リスクなどが障壁となり、取組が進みにくい現状がある。

交通問題は高齢者に限らず地域全体に関わる重要な課題であり、今後さらに深刻化することが懸念されるため、市においても地域と連携しながら課題解決に向けた支援や方策の検討を進めてほしい。

(岡本区長)

ご意見のとおり、高齢化の進展に伴い、移動手段の確保は地域における重要な課題の一つであると認識している。公共交通機関がある地域であっても、実際には自宅から停留所や駅までの距離や道路環境などにより、高齢者にとって利用が難しいケースがあることを改めて認識させていただいた。

(山部委員)

青年会議所では今年度、「顔の見える関係性の構築」を重要なテーマとして活動している。行政や地域団体との連携を深めることで、事業への協力や支援を得やすくなり、地域課題について多様な関係者が意見交換を行う機会の創出にもつながっている。

また、地域の課題解決やまちづくりを進める上では、関係者同士が直接つながり、互いに信頼関係を築くことが重要であり、自治会活動や地域活動においても「顔の見える関係性」が大切であるため、今後も行政や地域団体と良好な関係を築きながら連携していきたい。

(岡本区長)

地域課題の解決やまちづくりを進めるうえでは、それぞれの立場を超えて顔の見

える関係を築き、日頃から対話や情報共有を行うことが非常に重要であると感じている。行政だけで課題を解決することは難しく、地域団体や企業、各種団体の皆様との協力があってこそ、より良い取組につながるものと考えている。

今後も皆様との連携を大切にしながら、互いに顔の見える関係を深め、北区の地域課題の解決や地域の活性化に取り組んでいきたい。

(岡会長)

まちづくりや地域連携を進めるうえでは、顔の見える関係性づくりが最も重要であり、信頼関係が連携の基盤になる。

ダニエル・キム氏の「成功の循環モデル」のように、周囲との関わり方やコミュニケーションなどの『関係の質』が高まることで、前向きな思考や目的意識が生まれ、結果につながると感じており、「このメンバーでなら成功できる」と思えるような関係性を築くことが、活動の推進力になる。

このまちづくり懇話会においても、成果を急ぐのではなく、参加者同士の関係性を大切にしながら活動を継続していくことが重要である。そうした積み重ねが、5年後、10年後のまちづくりの成果につながっていくと期待している。

(関副会長)

本日のような意見交換の場を設けることで多くの意見やアイデアが出されることを実感した。そのうえで、地域団体や地域活動に関心を持つ人たちが、日頃の活動内容や取組、地域の困りごとなどを気軽に発信・共有できる仕組みがあればよいのではないかな。

また、課題を直ちに解決することが目的ではなくても、地域でどのような活動が行われ、どのような課題意識があるのかを共有することで、地域同士の相互理解が深まり、将来的な連携や新たなつながりの創出につながるのではないかなと思う。

◆本日欠席の井村委員からのご意見を紹介

- 1) 昨年度まちづくり懇話会で紹介があった交通安全の動画の視聴先について
 - 2) こども地域食堂のボランティア募集のため、くまもとアプリの説明会を北区で開催してもらえないか
 - 3) 北区の温泉旅館を利用して産後ケアの取組を実施できないか
- 以上3点については、後日、井村委員へ直接回答する旨説明

7 閉会

次回は10月初旬開催予定

令和9年度のまちづくり推進事業についてご意見をいただく予定